



ふじさわ体協

発行・編集 藤沢市体育協会

〒251-0052 藤沢市藤沢115 エフティービル

「つづけたいスポーツ、健康ライフ」



藤沢市教育委員会 生涯学習部長
高木 三広

本年4月に生涯学習部長に就任いたしました高木です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

藤沢市体育協会の皆様には、本市の生涯スポーツ振興に多大なるご尽力を賜り心からお礼申し上げます。

また、藤沢市体育協会におかれましては、この4月に創立60周年の記念式典・祝賀会が開催され、多くのご来賓を初め、各種目団体の皆様のご出席の中、盛大に行われましたことを改めてお喜び申し上げます。

今年、第20回オリンピック冬季競技大会を初めとして、2006年トリノ冬季パラリンピック競技大会、第1回ワールド・ベースボール・クラシック(WBC)、6月には第18回ワールドカップドイツ大会が開催され、一流アスリートのプレーを見る機会が多く、スポーツイヤーとなっております。各大会における日本選手の活躍は、私たちに勇気と感動を与えてくれました。

生命表によると日本人の平均寿命は女性が85・59年、男性が78・64年と前年に比べ女性が0・26年、男性が0・28年、男女とも上回った結果が示されました。「人生80年」という言葉もこの平均寿命はまさに世界有数の長寿国を示しています。そして、昨今、健康寿命という言葉が耳にします。健康寿命とは、健やかに過ごせる人生の長さとしており、世界保健機構の2002年国際比較において日本は第1位となっております。いつまでも健康であることは全ての人の願いではないでしょうか。健康の保持・増進にスポーツの果たす役割は大変大きなものがあると思えます。藤沢市はスポーツ振興の基本方針「ふじさわスポーツ元気プラン」の中で、将来のスポーツ振興の方向性を次のように示しました。

- 一、ふじさわからオリンピック選手やトップアスリートをうみだす活動を応援します
 - 一、誰にもやさしいスポーツのノーマライゼーションをすすめます
 - 一、身近なスポーツ指導者やスポーツボランティアを養成します
 - 一、健康づくりのスポーツ・レクリエーション情報提供を充実します
- これらを、具体化する上で、藤沢市体育協会を初め、加盟する31の種目団体の方々には、市民総合体育大会や市内で開催される各種大会に多大なるご尽力を頂くなど、本市のスポーツ振興に対するご理解、ご支援が大きな力となっております。
- 私もスポーツを愛する一人として、今日まで選手としてスポーツを楽しんでおります。幾つになってもスポーツに親しみ、競技スポーツ者として、健康のために、身体を動かすことを続けていきたいと思っています。汗をかき、ストレスを発散し、年齢差を超えた仲間との談笑、などなどスポーツの効用を体感しています。
- 健康の維持のためにスポーツは私にとって欠かせない常備薬の一つです。おわりになりますが、藤沢市体育協会の益々のご発展と皆様方のご健勝を祈念申し上げます。ごあいさつとさせていただきます。

創立60周年 記念式典 祝賀会開催

広報部長 川路 久男

藤沢市体育協会は、創立60周年を迎え、グランドホテル湘南で4月16日、記念式典を開催した。

当日は、両助役、教育長はじめ、藤沢市役所の関係者、衆議院議員、県市会議員、県体育協会、各市町村体育協会や体育関係者、協賛団体合せて223名が出席して記念式典と祝賀会が行われた。

一部の式典では、山田副会長の開会の言葉にはじまり、小泉会長が「本日の記念式典を契機とし、ふじさわ体協60年史の巻頭に記した『飛躍そして未来へ』を合言葉に、関係機関や各団体との協同をもとに、各種

立60周年



■挨拶する小泉会長

目協会とわれわれ体育協会が一丸となつて更なる組織の充実、発展をはかり100周年に向けて頑張りたい」とあいさつした。

表彰式では、藤沢市体育協会に対し、20年以上以上功績のあった、小泉勝彦、山田貢、青山俊夫、大縫光宏、設楽孝治、尾崎樹仙、栗原英昭、金子嗣の8氏を、体育協会功労者として表彰した。又、永年に亘り賛助会員(団体会員)として協賛頂いた、杉山スポーツ様、関水スポーツ様、富士鋳螺様、藤沢市職員福利厚生会様、三浦藤沢信用金庫様、茅ヶ崎ソフトテニス協会様の6団体を表彰した。表彰者各位には、表彰状と記念品がそれぞれ授与された。

久世助役をはじめとする来賓の方々からそれぞれ祝辞を頂き祝電の披露を行い、沼上副会長が閉会の言葉をのべた。各表彰者の記念撮影を行い二部の祝賀会に移った。

二部の祝賀会は、鏡開きの後、小野晴弘藤沢市教育長の乾杯にはじまり、60年間の想い出を出席者が各々歓談していた。



藤沢市体育協会創立60周年記念

体育連盟時代の苦労話や、体育協会設立当時の想い出を、今回作成した「ふじさわ体協60年史」を開きながら話すメンバーの眼は、いきいきと輝いていた。

各種目協会のみなさんは、先輩後輩が思い出を語り合ったり、他種目との交流もあり微笑ましい光景が見受けられ有意義であった。

祝賀会も時が進み、アトラクションの時間になった。専属司会者になって、手品、演歌と出し物の紹介がありにぎやかに演出された。鮮やかな手さばきによる手品に目を見はり、良い声と流暢な節奏つとりする参加者が多かった。「さすがにプロは違うな」と言う声の中でショーは進んでいき時の過ぎるのを忘れて楽しんでいた。

3時間半に亘る記念式典・祝賀会が終了したのは午後3時になっていた。参加されたみなさんは、盛大に行われた祝賀会に酔いしれているようだった。記念式典終了後、役員全員が集合し小泉会長の「ご苦労さん」のあいさつで会を閉じた。



■永年功労者表彰 受賞のみなさん

ふじさわ体協
創立60年記念誌

1冊 3,500円にて
販売致します
(限定30冊)

ご希望の方は、
体育協会事務局迄
0466-50-8243

本式典が、こんなに盛大に行うことができたのも、関係各位の絶大なご協力の賜と厚くお礼申し上げます。

今後、藤沢市体育協会は会長を中心に、一丸となつて頑張りますので尚一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い致します。

ありがとうございます。

平成17年度収支決算

1. 収入の部

(単位 円)

項 目	予 算 額	収 入 済 額	増 減
体 協 費	11,834,000	11,756,228	△77,772
補助金及び交付金	4,341,000	4,380,000	39,000
委 託 料	5,084,000	5,084,000	0
賛 助 会 費	1,650,000	1,534,000	△116,000
分 担 金	569,000	569,000	0
繰 越 金	189,216	189,216	0
雑 収 入	784	12	△772

2. 支出の部

(単位 円)

項 目	予 算 額	支 出 済 額	増 減
運 営 費	11,834,000	11,728,539	105,461
事 務 局 費	2,006,000	1,651,360	354,640
事 業 費	9,817,000	10,077,179	△260,179
積 立 金	10,000	0	10,000
予 備 費	1,000	0	1,000

収入済額 11,756,228 円
 支出済額 11,728,539 円
 差引額 27,689 円

平成18年度収支予算

1. 収入の部

(単位 円)

項 目	予 算 額
体 協 費	10,708,000
補助金及び交付金	3,599,000
委 託 料	5,037,000
賛 助 会 費	1,500,000
分 担 金	544,000
繰 越 金	27,689
雑 収 入	311

2. 支出の部

(単位 円)

項 目	予 算 額
運 営 費	10,708,000
事 務 局 費	1,774,000
事 業 費	8,920,000
積 立 金	10,000
予 備 費	4,000

射 撃 協 会	旧会長 矢部 重信 新会長 渡辺 博美
ゲートボール連合	旧会長 野澤 正三 新会長 林 富士夫
ヨット協会	旧会長 嶋田 和夫 新会長 貝道 和昭
ゴルフ協会	旧会長 山岸 保弘 新会長 佐々木 保弘

種目協会会長の変更(平成18年5月31日現在)

- 平成18年度藤沢市体育協会事業計画
- 1 評議員会、理事会、常任理事会、専門部会の開催
 - 2 藤沢市体育協会の組織運営に関する研究
 - 3 藤沢市委託事業の実施
 - ① 第61回藤沢市民総合体育大会開催事業
 - ② 第57回神奈川県総合体育大会藤沢市代表選手派遣事業
 - ③ スポーツ人の集い講演会の開催
 - 4 加盟種目協会への補助金交付
 - 5 体育協会創立60周年記念事業
 - 6 第22回「スポーツ人の集い」開催
 - 7 藤沢スポーツ賞(功労者、優秀選手、敢闘選手)の表彰及び各種表彰に関する事業
 - 8 先進市体育協会への視察
 - 9 県外スポーツ交流推進の助成事業
 - 10 賛助会員の拡充
 - 11 種目協会会長の開催
 - 12 広報紙の編集、発行に関する事業
 - 13 スポーツ関係団体との連携充実
 - 14 その他体育協会の目的遂行に必要な事業
 - ① 市民総合体育大会の見直し検討の推進
 - ② 体育協会とスポーツ課、スポーツ振興団体との連携について

ジュニア育成に携わって

藤沢市バドミントン協会

バドミントン協会は、平成17年に創立40周年を迎えました。私たちの協会は、平均年齢が30歳代前半と若いため、仕事の関係で協会のことは二の次になってしまいう事が多く、全員を集めて理事会を開催するのがとても大変でした。しかし、ここ数年で若い人たちの協会に対する考え方も変わってきた様で、「皆で協力しなくては」との思いが出てきた様です。今、ジュニア・中学生・高校生を育成をしています。特にジュニアは、6年前より秩父宮記念体育館で育成を始め現在に至っています。事の始まりは、バレーボール協会がジュニアの育成事業を行っているのを見たのがきっかけでした。バドミントン協会でも同じようにできるのでは？と思



2006.02.25

い、遊んでいる子供達や、バドミントンをやりたい場所が無い子供達を対象にスタートしました。最初の頃は、ひとりひとりが自分の主張で始まり、40人全員の話題は学校での出来事や、友達の話ばかりで、自分が話題の中心にならないと泣き出す子や、少しでも手を触れると喧嘩になったり友達付き合ひのわからない子供ばかりでした。小学生の時

は、先輩、後輩のけじめがないため、少しづつ教えていきました。がなかなか理解してもらえませんでした。試合に出掛けた時に他の団体の親から注意されても子供達は何の事か理解出来ずにいました。これも一つの教育と思ひ、その都度全員を集め、今どうして注意されたのかを説明したり...こんな事の繰り返しでした。今では、6年生をリーダーとして下級生がついて行き、新入部員に対しては皆で面倒を見てあげる、この様な当たり前の事が6年前は全然出来ませんでした。学校生活では経験できない様な事をいっぱい経験する...これは子供達の宝になると思ひます。学校の友達とは違

った大勢の仲間が出来た事は、とてもすばらしい事で「もっと自信を持って」と言っただけです。親は子供を大切にすることも大事だけれど、もう少し信頼してあげてほしい。私達は子供達からいろいろな事を学び、いっばい喜びも与えてもらった。本当に会えて良かった。これからも今まで以上、技術・心が上達出来る様にガンバリます。



種目協会アラカルト

大正時代の道家

藤沢市弓道協会

今年度は藤沢市体育協会創立六十周年おめでとうございます。六十周年記念誌の原稿準備のために集めました資料により、藤沢の弓道愛好家の活動について大正時代まで遡る事が出来ました。記念誌の口絵写真、座談会にも大正時代のことは紹介されておりますが、当時の偉大な弓道家本多流範士関根善太郎氏の紹介をして藤沢の弓道のいにしえに触れてみたいと思ひます。



研究と共に多数集まる同志に対し指導するを倦とせず日を暮らさる。氏の技術は的前十五間三尺の普通より遠的三十三間五十間に至る迄殆どの中しな

いの無い。氏の使用する弓矢は有名なる弓師石津父子の作になる。氏の弓道の号たる「青葉」の銘が打たれて有る。弓の種類は的前使用、園於使用、堂前使用等各種併せて十五六張りも蔵せられ、矢の如きも頗る高価たるもの多数蔵せられて、その値巨額に達せられる。氏は大正六年本多先生が亡くなられるまで約二十年間指導を受けられたと考えられます。

藤沢郷土誌(加藤徳右衛門著 国書刊行会 昭和八年初版発行)には次のように紹介されています。

「廿二歳の青春の血に燃える頃より竹林派弓術の大家本多利實氏の菓鴨の道場に通って研究を積んだ。氏は弓術の趣味に生くる事茲に廿五年、大正九年には大日本武徳会総裁大勲位功四級久邇宮邦彦王殿下より精練証を授与されている。(中略)

邸宅を鶴沼海岸にかまえ、広き庭園の一部には自ら丹精の菊、懸崖のみにて百五六十鉢あるを早朝より世話して、海浜の朝の清気を吸ひては勤めに赴かる。日曜日には自らの

編集後記

今年度初めの「ふじさわ体協」も生涯学習部長新任の辞、体協60周年記念式典の報告、協会アラカルトにおいては歴史のある2協会の協力を得、誌面を飾る事ができた。記念式典にあわせ念願であった記念誌を作成し「飛躍して未来へ」の表題通り、体協も広報紙も更なる飛躍を!!と願って編集後記としたい。

荻野・尾崎